

Vol.37

2011.9  
September

京都

# ケアマネ・ポート

KYOTO CARE MANE PORT

## Contents

- 2 平成23年度 京都府介護支援専門員会 第8回総会報告
- 2 役員紹介
- 3 ブロック委員会名簿
- 5 「災害時対応」に関する介護支援専門員の実態調査報告
- 7 新会員インタビュー ～3～
- 7 お知らせ
- 8 編集後記

平成23年度

## 京都府介護支援専門員会 第8回総会報告

平成23年6月25日（土）午後2時00分～

京都商工会議所3階講堂にて第8回総会が開催され、提出された議案は原案通り可決されました。

- 第1号議案 平成22年度事業報告（案）
- 第2号議案 平成23年度収支決算（案）
- 第3号議案 理事の選任について
- 第4号議案 東日本大震災にかかるボランティアケアマネジャーおよびその体制に対する支援について

第1号、2号議案はお送りした総会案内のとおりです。第3号議案で選任された理事については下記をご覧ください。ご出席いただきました会員の皆様、ありがとうご

ざいました。

なお、総会に引き続き、「東日本大震災におけるケアマネジャーの活動報告」～災害時ケアマネジャーにできること～

というテーマで、社会福祉法人白寿会在宅部ディレクター 三浦浩史氏に活動報告をしていただき、その後、一般社団法人日本介護支援専門員協会常任理事 鷲見よしみ氏と対談をしていただきました。



## 役員紹介



理事

木村 明祐

4月に警察庁と日本歯科医師会の依頼を受け、京都府歯科医師会より派遣1隊6名のうちの1人として宮城県で1週間、ご遺体の身元確認作業に携わってきました。普段の診療や口腔保健活動だけでなく、非常時には私たち歯科関係者にしかできない業務です。一人でも多くの方がご家族の元に戻っていただけるようお祈りいたします。

さて、理事として歯科からの様々な情報発信をさせていただくと同時に、各業種の方々の仕事内容を理解して、府民の皆様の生活の質の向上に少しでも関わられるようがんばってまいります。よろしくお祈り申し上げます。



理事

依岡 徹

私の所属する一般社団法人理学療法士会（以下京都府PT士会）は、昭和45年6月に京滋の理学療法士、作業療法士が発足させた職能団体です。その後作業療法士が独立、滋賀県理学療法士会も独立し、以降京都府理学療法士会として、京都府の理学療法の啓発と発展に寄与してまいりました。現在会員数は1,500名を超えました。

昨年11月には、設立40周年を迎え、同時に法人化を行い、一般社団法人として新たな歩みを始めたばかりです。そうした中、関連団体である社団法人京都府介護支援専門員会より、お声かけいただき、京都府PT士会の推薦を受け理事をさせていただくこととなりました。

微力ではございますが、お役にたてるよう頑張りたいと思います。よろしくお祈りいたします。

# ブロック委員会名簿

ブロック	役職	氏名	所属事業所	事業所所在地
丹後	委員長	依田久子	弥栄はごろも苑	弥栄町
	副委員長	中垣直美	宮津武田病院	宮津市
	会計	中西竜幸	丹後福祉応援団 居宅介護支援事業所	与謝野町
	委員	田茂井久美子	リハ・ヴィラ なぎさ苑	宮津市
	委員	蔭山和久	岩滝あじさい苑	与謝野町
	委員	倉橋伸恵	はまなす苑居宅介護支援事業所	宮津市
	委員	細見英子	居宅介護支援事業所青嵐荘	宮津市
	委員	梅本稔博	久美浜居宅介護支援事業所	久美浜町
	委員	中江一枝	いちがお園居宅介護支援事業所	丹後町
中丹	委員長	北山重良	ミストラル介護センター福知山	福知山市
	副委員長	松味喜久代	小春日和	舞鶴市
	会計	荒樋智子	綾部市医療公社 訪問看護ステーション	綾部市
	委員	杉山利正	にれの木園	福知山市
	委員	岩本幸子	グループホーム いこいの村 とくらの家	綾部市
	委員	高橋尚子	グループホーム さくらプラザ	舞鶴市
中部	委員長	西村篤	亀岡あゆみ居宅介護支援事業所	亀岡市
	副委員長	中嶋優	南丹社協 ほほえみ園部居宅介護支援事業所	南丹市
	会計	河原妙子	ガレリアかめおか老人介護支援センター	亀岡市
	委員	梅原洋一	京丹波社協 丹波居宅介護支援事業所	京丹波町
	委員	苅田誠	園部丹医会病院 居宅介護支援事業所	南丹市
	委員	塩内友行	はぎの里ケアプランセンター	南丹市
	委員	成瀬始	亀岡友愛園	亀岡市
	委員	能勢幸浩	亀岡友愛園	亀岡市
	委員	藤岡嗣朗	藤岡五ヶ庄診療所	南丹市
京都市北	委員長	高木はるみ	京都福祉サービス協会 小川事務所	上京区
	副委員長	山下珠美	社会福祉法人健光園 健光園ケアプランセンター	右京区
	会計	出島玄子	居宅介護支援事業所 リーベン嵯峨野	右京区
	委員	細見りつ子	社会医療法人和交会 うずまさ診療所	右京区
	委員	長谷川隆司	居宅介護支援事業所 堀川病院	上京区
	委員	高野幹也	京都福祉サービス協会 小規模多機能型居宅介護支援事業所小川	上京区
	委員	兵藤慎秩	市田医院介護支援事業所	左京区
	委員	吉田三穂	京都市高野地域包括支援センター	左京区
	委員	高間千恵	川端診療所 居宅介護支援事業所	左京区
	委員	南哲也	居宅介護支援事業所壬生ホーム	中京区
	委員	恩知麻有	京都福祉サービス協会 京都市本能特別養護老人ホーム	中京区
	委員	舌一恵	洛和会医療介護サービスセンター丸太町店	中京区

ブロック	役職	氏名	所属事業所	事業所所在地
京都市北	委員	池邊 義一	京都市柘野地域包括支援センター	北区
	委員	西田 和美	特別養護老人ホーム ユーカリの里居宅介護支援事業所	北区
	委員	安原 美早子	京都生協福祉事業部ホームヘルプサービスセンター	北区
京都市南	委員長	堀井 淳史	(医)静仁会 堀井医院	東山区
	副委員長	猪師 ナチエ	京都福祉サービス協会 柳辻事務所	山科区
	会計	田室 知実	京都市島原地域包括支援センター	下京区
	委員	中平 克樹	医療法人啓信会居宅介護支援センターリエゾン四条	下京区
	委員	並河 哲也	京都市下京・東部地域包括支援センター	下京区
	委員	上田 充子	松原のぞみの郷	下京区
	委員	鹿間 浩子	貞教居宅介護支援事業所	東山区
	委員	中藤 正一	ももやまケアプランセンター	伏見区
	委員	橋本 かおり	居宅介護支援事業所さくら	伏見区
	委員	白神 泰	京都市醍醐・北部地域包括支援センター	伏見区
	委員	大藪 志保	社団法人京都保健会 九条診療所	南区
	委員	沼田 みき	京都市陶化地域包括支援センター	南区
	委員	鈴木 豊子	信和会 大宅診療所	山科区
	委員	谷岡 延子	ケアサポート八重	西京区
乙訓	委員長	山地 岑代	NPO法人 ほっとスペースゆう「いずみの家」	長岡京市
	副委員長	静野 博信	向日市社会福祉協議会 居宅介護支援事業所	向日市
	会計	坂根 泰子	NTT西日本京都病院	南区(長岡京市居住)
	委員	村山 道代	長岡京市地域包括支援センター	長岡京市
	委員	渡邊 泰彦	長岡京市社会福祉協議会 きりしま苑	長岡京市
南山城	委員長	池崎 稔	池崎医院	京田辺市
	副委員長	大垣 千恵子	八幡市地域包括支援センター	八幡市
	会計	勝山 小夜子	居宅介護支援事業所東楽生苑	久御山町
	委員	松本 珠美	コクラ医院小規模多機能型居宅介護支援事業所 どんぐりの家	城陽市
	委員	桂 淑子	南宇治地域包括支援センター	宇治市
	委員	浦岡 恵子	ケアサービスセンター あいじゅ	宇治市
	委員	下 雅子	白川明星園介護サービスセンター	宇治市
相楽	委員	阿部 峯子	居宅介護支援センター 梅林園	城陽市
	委員長	池田 文武	コマダ診療所	精華町
	副委員長	村上 晶之	和束町社会福祉協議会 和束町在宅介護支援センターなのはな	和束町
	会計	古川 節子	コマダ診療所	精華町
	委員	吉川 温	インクルかもケアプランセンター	木津川市
	委員	市原 美知代	介護老人保健施設アンジェロ	木津川市
	委員	畑中 めぐみ	加茂町在宅介護支援センター加茂の里	木津川市
	委員	西谷 千代子	NPO法人 インクル・かも	木津川市
	委員	松下 智子	社会福祉法人京都南山城会 湧出ぬくもりの里	木津川市
委員	天野 基弥	天野医院	精華町	
委員	宇宿 木綿子	南山城村社会福祉協議会	南山城村	

## 「災害時対応」に関する 介護支援専門員の実態調査報告

過日ケアマネポート36号に同封して皆様にご協力頂いたアンケート結果です。53通の返信を頂きました。ご協力頂いた皆様、ご多忙の中ありがとうございました。

まず始めにお聞きした担当件数についてですが、0件（管理者？）～72件（地域包括支援センター？）と非常に大きな幅がありましたので、集計の段階で個々の設問に回答頂いた件数を実数ではなく担当件数毎の割合（項目毎の回答件数/担当件数）として集計しました。

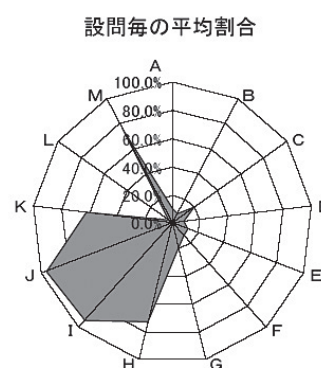
傾向としては、民生委員との連携ができていないケースが9.9%（平均）地域住民等との連携が7.6%（平均）と地域の方たちとの連携についての項目が低迷し、主治医など医療関係者の情報の把握96.5%緊急時の連絡先の把握93.9%などとは対照的な結果となりました。この度の東日本大震災のような大災害となれば、まずは安否確認などを含めた初動対応、その後、地区（域）毎に避難所が設置され、一定期間避難所での生活が行われることなどを勘案すると、こういった緊急時にケアマネジャーとして把握している情報が必要となることも出てくるでしょう。こういった情報を有効に活用するネットワークを機能させるためには、日頃より地域との連携作りが重要なことは明確です。

ただ、この辺りについてはケアマネジャー個人の努力にばかり依るものではなく、自由記載の意見にもありま

すように「包括センターは地域連携を会議等で顔合わせをしておられますが、居宅支援の方は、そういう機会がない」等、地域包括支援センターに比べ、居宅介護支援事業所のケアマネジャーにとっては地域との接点や情報収集に関して制度面での課題もあるように感じました。こういった中、「地域ケア会議等が地域包括支援センターを通じて顔の見える関係作りを行う」「独居の方は、サービス導入時に連絡を入れる（民生委員or老人福祉員）」皆さんも積極的な連携のためいろいろと努力されているようです。

また、日頃からの備えともいえる避難についてですが避難場所の把握は19.5%、避難経路は8.3%、避難方法は12.1%と大きく下がってしまいます。この度の震災報道などから災害をシミュレーションすることは二次被害防止に非常に重要であることをたくさん学びました。こういった取り組みはケアマネジャーよりも、どちらかというと地域や行政の取り組みかもしれませんが、自由記載の意見の中にも「避難エリアマップで現在確認作業中。利用者にも訪問時確認していくことを事業所で決めた」「行政区の支援事業者連絡会で研修会を開き、消防署から講演してもらい避難地図も（安心カード）等も渡している」「地域を知り、どこに学校や避難場所があるか確認する」「初回訪問時に一時避難場所を確認します。避

- A : 利用者の担当民生委員と連携ができていない
- B : 地域住民・町内（自治会）役員と連携ができていない
- C : 利用者の一時避難場所を把握していない
- D : 災害時の避難経路を把握していない
- E : 避難方法を把握していない
- F : 家族と情報共有ができていない
- G : 利用者に関わる医療関係者と共有ができていない
- H : 利用者の住宅地図が綴じられていない
- I : 緊急時の連絡先が綴じられていない
- J : 主治医などの医療関係者の情報が綴じられていない
- K : 服薬情報が綴じられていない
- L : 薬の保管場所が綴じられていない
- M : その他健康面で必要な情報が綴じられていない



難方法については家族があればおまかせします」等、意識的に取り組んでおられる方も複数いらっしゃいます。

その他、避難に限らず「過去の災害状況から、家族力・医療機器の確認・電源・移手段と地域の協力者（消防団員等）、調整可能なら病院でのバックベッドの確認、所在確認方法と市町村への連絡等々、連絡のみならず、行動手順を家族と確認するように心がけています」「災害時を想定して確認した（例えば在宅酸素、家族に外出時のボンベの装着方法を確認した）」「注意報・警報などの気象情報をメールで受信できるようにしている（京都府防災・防犯情報メール配信システム）」等、様々な方面で災害を意識した行動をとっているケアマネジャーも複数いらっしゃいます。

危機管理にはできるだけ多くの機関、ひとりでも多くの人が重層的に関わることが重要です。今回のアンケートの自由記載にもたくさん紹介されていましたが、以前より行政並びに各機関では防災や災害を想定とする様々な取り組みがなされています。今回の震災でこういった取り組みを再確認したり、多機関が係わっている取り組みを連携させたりする動きも出てきています。こういった取り組みを知り、自分が担当している利用者がどうい

った機関のどの様な取り組みに把握されているのか？また、それらの取り組みからの把握に漏れがないのか？さらには自らのケアプランとどの様に連動させるのか等ケアプランの中の危機管理を問われる時なのかもしれません。

最後に「今回のアンケートで、自分が何ひとつできていない事に気づかされました。まず、民生委員さん等との連携から始めたいと思います」「気になる方には主治医の往診や診察に同行して、相談できる関係を作るようにしていますが、災害時のことは話したことがありません。この質問をうけて、確認しておくことが必要だと気づきました」といった声に代表されるよう、ひとりでも多くの皆さんが今回の震災や、このアンケートをきっかけに災害や危機管理を考えて頂ければと願います。

尚、今回のアンケートではケアマネジャーの生の声として、すぐにでも実務に役立つ取り組みの紹介やご提案を多数頂きました。残念ながら紙面の都合上全ての集計結果、自由記載のご意見を掲載できません。結果の全文については当会ホームページ <http://kyotocm.jp/> に掲載しております。こちら是非ご覧ください。

表：設問毎の割合

設問		最大	平均	0% 件数	100% 件数
I 担当件数について		72 件	26.2 件	—	—
II 地域との連携	①利用者の担当民生委員と連携ができています	70.8%	9.9%	10	0
	②地域住民・町内（自治会）役員と連携ができています	62.5%	7.6%	17	0
III 避難場所等の情報の把握	①利用者の一時避難場所を把握している	100%	19.5%	24	5
	②災害時の避難経路を把握している	100%	8.3%	32	5
	③避難方法を把握している	100%	12.1%	33	3
IV 重度の要介護者の避難	①家族と情報共有ができています	93.8%	13.1%	21	0
	②利用者に関わる医療関係者と共有ができています	100%	18.6%	20	1
V 利用者台帳等の整理	①利用者の住宅地図が綴じられている	100%	72.4%	3	32
	②緊急時の連絡先が綴じられている	100%	93.9%	1	41
	③主治医などの医療関係者の情報が綴じられている	100%	96.5%	1	44
VI アセスメントとケアプラン	①服薬情報が綴じられている	100%	61.8%	6	13
	②薬の保管場所が綴じられている	72.7%	4.0%	34	0
	③その他健康面で必要な情報が綴じられている	100%	75.8%	5	28

## 新会員インタビュー ～3～

### 調査・研究委員会より ～新入会員さんへインタビュー～

新会員様のご協力のおかげで、2010年度調査研究委員会「インタビュー調査」は、有意義な成果を得て、終了いたしました。今回は、パワーあふれるお二人の声をお届けしたいと思います。

**Q.** 初めてケアマネジャーになったのが、「小規模多機能型」と聞きましたが、日常のケアマネ業務について、聞かせてください。

**A.** 送迎や他の業務も行うので、ケアマネ業務は、1日の半分くらい。なかなか時間が取れないが、送迎時に家族と話したり、ケアしながらアセスメントし、プランを考えている。小規模多機能のプランは、施設と居宅の真ん中、全部（＊福祉用具貸与等は除く）中ですので、細かな内容ができるし、プラン変更もすぐできる。

**Q.** 課題と感じておられることはどんなことでしょうか？

**A.** 小規模多機能は、利用者、家族にとって良いサービスだと思う。しかし、報酬単価が低いので、働く側は大

変で離職率も高い。報酬を上げると、利用者負担にはねかえるので難しい。そのうち、本来の小規模多機能の理念ができないところが出てくるのではないかと危惧している。

**Q.** 「会で、このような事ができたらいい」と思われることがあれば、教えてください。

**A.** 当地域は、山間部で社会資源が少ない。例えば、独居のおじいちゃんが困っていることに対して、一人のケアマネとして、何をどのようにしていけばいいのか、組織、関係機関にどのように関わり、巻き込んでいったらよいか難しい。実践事例報告を聞き、先輩に教えてもらえたら嬉しい。

合計5回のインタビュー調査を通して、あらためて、様々な地域性、職場の中で、ケアマネジャーが働き、様々な思いや会へのニーズがあることを再認識しました。同時に、共通の視点や願いも力強く感じました。課題の解決、改善、向上に向けて、また一歩踏み出せたらと思います。紙面の都合上、詳細は、HPに掲載しておりますので、是非ご覧ください。

調査・研究委員 南出裕美子

## 事務局からのお知らせ

information

### 【会費納入のお願い】

会費の納入について6月初めに郵送をさせていただきました。早々にご入金いただきました方、誠にありがとうございました。また、まだ、ご入金がお済でない方は、恐れ入りますが、ご入金をよろしくお願いたします。なお、郵便貯金自動振込の手続きをされている方および銀行預金自動振替の手続きをされている方で、残高不足のため引き落とされなかった方が、若干名いらっしゃいます。お心当たりのある方は、申し訳ありませんが、10月25日に再度自動振込・自動振替のお手続きをさせていただきますので、よろしくお願いたします。

### 【メールマガジンのご案内】

入会時にメールアドレスをお届けいただき、入会申込書に「メールマガジンを希望する」にチェックをされた方には、定期的にメールマガジンを配信させていただいております。今からでもご希望される方は、事務局までメールにてご連絡いただければ、配信させていただきます。info@kyotocm.jpまでご連絡ください。

## 【ホームページのご案内】

ホームページにありますカレンダーに研修案内があります。文字をクリックしていただきますと研修内容が確認できます。どうぞご活用ください。



## 【封入物のご案内】

- 府民公開講座のご案内  
平成23年11月19日（土）に開催しますので、皆様、お誘い合わせの上、ご参加ください。
- 第11回近畿介護支援専門員研究大会 滋賀大会のご案内  
今年度も近畿大会を開催いたします。京都は、第4分科会「認知症の人と家族を支援するケアマネジメント」を担当いたします。今回発表形式ではなく、会場参加型討論会をいたしますので、ぜひ、ご参加ください。
- NHK 介護百人一首の短歌募集のご案内  
心温まる短歌で「介護」を共感してください。
- 各出版社から介護支援専門員に関する刊行図書のご案内

## 編集後記

連日の猛暑の中、会員の皆様におかれましては日々の業務への取り組みお疲れ様です。

去る6月11日平成23年度のブロック委員総会が行われ、京都府下各ブロックより多くの委員の皆様にご参加を頂くことができました。毎年行われている集まりではありますが、今年度は初めての試みとして、各ブロック入り混じっての小グループディスカッションが持たれ、それぞれの地域の実情や、ブロック委員を担う中での悩み、京都府介護支援専門員会に対する要望など活発なご意見を聞かせて頂きました。

また、普段業務を行っている地域を越え、膝を突き合わせながら（参加者が多く非常に狭い会場となりましたので…笑）話す機会をもてたことは、共に京都府下で働くケアマネ相互の交流、顔の見える関係の構築につながったのではないかと感じています。会員の皆様にとって、最も身近な各ブロックでの活動や、今回のようなブロックの垣根を越えた交流を通して会員同士の横のつながりを広げ、深化させていく機会を設けることは当会の重要な役割の一つであると考えます。

会員の皆様には業務多忙の折とは存じますが、今後ともご参加、ご意見を頂き共に当会の活動の活性化に取り組んでいければと思います。ご助力の程よろしくお願いいたします。

理事 秋風 伯尚

### 京都ケアマネポート37号

2011年9月1日発行

発行人 上原 春男

編集委員長 松本 善則

発行元 社団法人 京都府介護支援専門員会

〒604-0874 京都市中京区竹屋町通烏丸東入ル清水町375 京都府立総合社会福祉会館7階

TEL. 075-254-3970 FAX. 075-254-3971

E-mail: info@kyotocm.jp URL: http://kyotocm.jp/